

2018 年国民体育大会（福井）視察レポート

報告者：村松 太介（静岡県立新居高等学校）

■目的

静岡県の国体チーム（少年男子）の試合を分析し、静岡県チームの良さと課題を明確にする

■分析対象

1 回戦 静岡県 vs 石川県 1 - 1 (PK 3 - 4)

■報告対象者

コーチングスクール関係者

■流れおよび全体像

- ・ 9 月 30 日（1 回戦）から 10 月 4 日（決勝）の 5 日間の日程で行われた。
- ・ 70 分ゲーム（35×2 インターバル 10 分）※決勝戦以外は即 PK
- ・ 登録選手 16 名（交代 5 名可）
- ・ 台風 24 号の影響もあり、一回戦の試合開始時間が 1 時間早まった。

■良さと課題

【攻撃】

○良さ

- ・ 基本的技能（止める、蹴る、運ぶなど）のレベルが高い
- ・ 複数人が連携した攻撃（3、4 人目の動きなど）ができる
- ・ ポゼッションの能力が高い

●課題

- ・ シュートの精度が低い（1 得点／16 本） シュート数合計 16 本 うち枠内 10 本
ペナルティーエリア外 3 本、ペナルティーエリア内 13 本 (GK との 1 対 1 4 本)

※石川県（1 得点／4 本） シュート数合計 4 本

ペナルティーエリア外 1 本、ペナルティーエリア内 3 本

- ・ ギャップ or 背後の判断

相手の DF ラインが低く、かつ相手 DF と MF の間にスペースがある場合には、そのスペース（ギャップ）でボールを受け、攻撃を組み立てることができていた。しかし、相手の DF ラインが高く、DF、MF がコンパクトな場面でも同様にまず近くの選手に

パスをするシーンが目立った。

【守備】

○良さ

- ・複数人が連携した守備ができる（コース限定からのインターセプトや縦パスが入ったときに前後で挟み込むなど意図的、組織的な守備が展開されていた）
- ・1対1の守備（特に球際）

●課題

- ・相手による「DF背後を狙った攻撃」に対する予測と対応が未熟（相手がロングボールを蹴る瞬間に状況に応じてラインを下げる、止めるなどの予測、対応がない）※失点シーンをはじめ、ピンチの要因となるが多かった。

【その他】

●課題

- ・得点、失点しやすい時間帯の注意が不足（リスタート、得点后、失点后、など）

※今回の失点は得点直後の相手のワンプレー目であった。

■総括

静岡県チームは、中盤や前線で複数人が常にボールに関わり、サイド、中央からたくさんチャンスをつくることが出来た。しかし、相手の4倍ものシュートを放ちながらも精度が低く、チャンスをものにすることが出来なかった。特に、ペナルティーエリア内からのシュートは13本あったが、ミートしなかったり、コースが甘かったりして得点は1点にとどまっている。また、13本のうちGKとの1対1が4本あったが、いずれもGKに防がれている。シュートの精度を改善していくのはもちろんのことだが、ゴール前の局面で相手DFやGKと冷静に駆け引きができる能力を養うことも今後の課題といえる。

守備では、1対1や球際で強さを発揮し、相手が自分達のDFよりも前でプレーしているときはほとんどチャンスを作らせなかった。しかし、相手によるDF背後を狙った攻撃に対しての予測や対応が悪く、多くのピンチを作ってしまった。DF背後へのボールに対する予測と対応、得点が動きやすい場面の意識の共有が今後の課題といえる。

■終わりに

静岡県の代表として勇敢に戦った選手、スタッフ、貴重な視察の機会を与えていただいた池谷委員長、武田先生、大石先生、関係者の皆様に感謝申し上げます。